TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

これが神のやり方 -神さまが計画された救いの方法-
心に施された割礼　ローマの信徒への手紙 2:25-29

2026 年 6 月 27 日 & 28 日
余沢 武 牧師

I. はじめに

こんにちは。今日もローマの信徒への手紙の学びを続けます。パウロはこう言います「私は福音を恥としません。福音は救いをもたらす神の力です。」福音の内に「神の義」が啓示されているからです。パウロによれば

1 創造主なる神の存在は被造物を通してはっきりと認められるのにそれを認めることを拒んだため、神の怒りが私達に現されました。神は私達を情欲に任されました。
2 私達は皆、不道徳で、争いを好み、高慢で、陰口を言い、愛さず、憐れみのない者となりました。そしてこのようなことを行う人を称賛したり、他方でそれを行う人を裁いたりするのです。
3 そして、私達は皆、神に裁かれます。異邦人は彼らの心が知っていることによって、ユダヤ人は聖書を通して知っていることによってです。
4 今日、私達は神の民であるユダヤ人でさえもなぜ罪に定められるのかを見ていきます。お祈りしましょう。

II. 心に施された割礼

(1) 割礼

ローマの信徒への手紙 2:25 を開きましょう。そこにはこうあります。**「あなたが律法を行うなら、割礼は役にも立つでしょう。しかし、律法に背くなら、あなたの割礼は割礼を受けていないのと同じです。」**

割礼とは、神がアブラハムとその子孫との間に結ばれた契約のしるしとして神によって定められたものであり、彼らが契約にあずかる民であることを示すものでした。

しかし、紀元前 175 年から 154 年頃、ヘレニズム化を進めた支配者アンティオコスは神殿を汚そうとし、割礼を禁止し、死罪と定めました。熱心なユダヤ人たちは、息子たちに割礼を施さないくらいなら死ぬことを選びました。その後彼らは、その禁止を解くアンティオコスへの反乱を成功させました。

それ以来、ユダヤ人の間で割礼はさらに大きな重要性を持つようになりました。中には次のように教える者もいました。

1 割礼を受けた者が地獄に落ちることはない。
2 アブラハムが地獄の門の前に座っており、割礼を受けたユダヤ人がそこに入るのを決して許さない。

そのような理由で初期の教会では割礼が激しい論争の的となりました。大半のユダヤ人にとって自分たちを「神の民」としてくれるのが「割礼」だったからです。

しかしながらパウロは　言います。**「あなたが律法を行うなら、割礼は役にも立つでしょう。しかし、律法に背くなら、あなたの割礼は割礼を受けていないのと同じです。」**

つまり、パウロが言おうとしているのはこういうことです。「割礼」とは、神への信仰を通して与えられ、御言葉に従うことを通して表現される「神と本当に関係を持っていること」を指し示すしるしだということです。アブラハムはそれを持っていました。契約の本質は、私達が持つ「神との関係」にあります。

それは成田空港行きのバスに乗るようなものです。そのバスには「成田空港」と書かれた行き先が表示されています。私達はその表示が「成田空港」を指し示していることを知っていますが、表示そのものが「成田空港」であるわけではありません。

「割礼」もそれと同じです。それは、神への信仰を通して与えられ、御言葉に従うことを通して表現される「神と本当に関係を持っていること」を指し示すしるしなのです。しかし、もしそこに「神との本当の関係」がないのであれば、「割礼」は何の意味もなくなり、それは「無割礼」と同じになってしまいます。

そしてこれを洗礼にたとえることもできます。洗礼もまた、イエス様への信仰を通して与えられ、御言葉に従うことを通して表現される「神との本当の関係」を

私達が持っていることを指し示すしるしなのです。しかし、そこに「神との本当の交わり」がないのであれば、「洗礼」そのものは何の意味もなくなってしまうのです。

(2) 割礼を受けていないということ

26 節「だから、割礼を受けていない者が律法の規定を守るなら、割礼を受けていなくても、受けた者と見なされるのではないですか。」

「割礼を受けていな者」とは、私達の多く、すなわちユダヤ人ではない者、異邦人を指しています。

27 節「そして、体に割礼を受けていなくても律法を守る者が、あなたを裁くでしょう。あなたは律法の文字と割礼とがありながら、律法に背いているからです。」

これは当時のユダヤ人にとって最もびっくりする教えであったと思います。

パウロはこう言っているのです。ユダヤ人は神の民であることの「肉体のしるし」である「割礼」を受けているものの、もし「神への信仰を通して与えられ、御言葉に従うことを通して表現される神との本当の関係」がないのであれば、彼らが神の民として受け入れられることはありません。

それに対して、割礼を受けていない異邦人であっても、「神への信仰を通して与えられ、御言葉に従うことを通して表現される神との本当の関係」を持っているなら、その人達がむしろ神と共にユダヤ人を裁くことになるというのです。すなわち、そういった人達がユダヤ人が本来どのように振る舞うべきであったかを示す証人となるのです。

したがって、パウロによれば、本当に重要なのは割礼という肉体のしるしでもなく、ユダヤ人か異邦人かという民族性でもありません。そうではなく、「神との本当の関係」を持っているかどうかなのです。

何年か前、ここ TBC で福音を聞き、イエスを受け入れる祈りをして、洗礼を受け、毎週の礼拝に欠かさず集っていた青年がいました。教会員になり奉仕にも加わりました。 しかしある時から姿を見せなくなり、自分はもう信じていないと告げました。 私たちは何があったのだろうと思いました。

これこそパウロが語っていることです。キリスト者である私達も、自分が神の民であることを示す教会での奉仕のような「目に見えるしるし」をすべて持っているかもしれません。

しかし、その本質、つまり「神への信仰を通して与えられ、御言葉に従うことを通して表現される神との本当の関係」がなければ、それらはすべて無意味です。

これがその青年の悲劇でした。彼は目に見えるしるしをすべて持っていました。しかし、神との本当の関係を持っていなかったのです。神との本当の関係がなければ、遅かれ早かれ、自分もそのことに気づき、同じように周りも気づきます。

(3) 心に施された割礼

28 節-29 節「[28] 外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、肉に施された外見上の割礼が割礼ではありません。[29] 内面がユダヤ人である者こそユダヤ人であり、文字ではなく霊によって心に施された割礼こそ割礼なのです。そのような人は、人からではなく、神から誉れを受けるのです。」

外見を変えることと、その中身を変えることは全く別の事です。夏が近付くと、皆が甘いスイカを食べるのを楽しみにします。日本で見かけるおもしろいスイカに、四角い形、つまり立方体のスイカがあります。

この四角いスイカは見事なものです。しかし、味は他の普通のスイカと変わりません。なぜなら、それらは外側の形を変えるために四角い型の中で強制的に育てられただけであり、中身は何も変わっていないからです。これは一つの変化の方法です。

もう一つの方法として、スイカは品種改良によって中身を変えることもできます。たとえば明治時代には、日本の品種(権次)と「アイスクリーム」と呼ばれるアメリカの品種を交配させることで、有名な「大和西瓜」が作られました。

そして、この交配によってスイカの DNA 構造は完全に変わり、原種よりも甘いまったく新しいスイカ品種

が誕生したのです。これは完全な内面からの変革です。

パウロは、本物のユダヤ人、すなわち真の神の民、クリスチャンとは、このようにして生まれるのだと言っています。それは単なる外見の変化ではありません。それは完全な内なる心の変革によって生まれるのです。
聖書の中にある真理を知って、ただ単に自分自身が本当はどれほど不品行で、自己中心、高慢で、汚れているかを知ることによって、私達が自らの罪深さを知り、イエスは愛をもって来られ、私達の罪のために死に、新しい命を与えるために復活されたこの方を、自分の救い主として受け入れるとき、聖霊が私達の内に入り、私達の心に内面からの変化をもたらしてくださいます。

これらを通して
- 自分の罪への自覚がすすむ。
- 私達は神の御言葉を読み、それに従いたいと願うようになります。
- 神に語りかけ、神に依り頼みたいと願うようになります。ただ神に喜ばれることだけを願い求めるようになります。

これこそが心の割礼ですーすべてが聖霊の働きによって導かれるのです。

パウロはこう言っています。「そのような人は、人からではなく、神から誉れを受けるのです。」

宗教改革者マルティン・ルターについて、本当に素晴らしいと思うことがあります。カトリック教会の誤った教えを指摘した「95か条の論題」で知られるようになる前、彼は絶えず告解室へ行って自分の罪を告白する修道士として知られていました。これこそが彼の素晴らしいところです。彼はただ神に喜ばれることだけを望んでいたのです。

彼が「95か条の論題」を書き、教会からそれを撤回するよう命じられ、破門されるか、あるいは殺されるかもしれないという状況にあっても、彼はただ神に喜ばれることだけを望んでいました。そのため、そのことについて祈って深く考える日を1日くださいと求めました。彼は一晩中、神様助けてください、何をすべきか教えてくださいと、神にすがりついて祈り続けました。

そうしてようやく迎えた翌日、恐れおののきながら、この先自分に何が起こるか分からない中で、彼はこう言いました。「私は何も撤回することはできないし、撤回しようとも思わない。……私はここに立ちます。それ以外にどうすることもできません。神よ、私を助けてください。」

彼は、のちに宗教改革と呼ばれるような事が起こるとは夢にも思っていませんでした。彼にわかっていたのは、ただ神を信頼し、神に従いたいということだけでした。彼はそれだけを望み、彼にとってはそれだけが大切だったのです。彼は「割礼を施された心」を持っている人でした。そしてそれこそが、神が彼を称賛される理由なのです。

私達が心に割礼を受けるとき、すなわち、謙遜に自分の罪を認め、神への信仰を通して与えられ、聖霊の助けによって神の御言葉に従うことを通して表現される神との本当の関係を自分のものとするとき、そのときこそ、私達は神から褒められるのです。あなたは割礼を施された心を持っているでしょうか。

クリスチャンの皆さん！　私達の生涯が、外から見られる姿によってではなく、私達の内にある「割礼を施された心」によって知られるものでありますように。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg2626jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9 月 6 日(日)1:00 pm ～ 5:00 pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
クリスチャンとして成長するために
9 月 20(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

全クラス申し込み:
https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

急募！

1.日本語訳レイアウト&印刷

（女性 2 名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

2.礼拝メッセージ翻訳

・1 ケ月半～2ケ月に 1 度、自宅でできます。スケジュールは都合に合わせて選べます。
英語と日本語が出来る方

3.日本語字幕オペレーター

9 時の礼拝の字幕オペレーターの募集です。
英語を聞いて日本語のページを矢印キーを押して進めるだけの簡単な作業です。
月 1，2回。可能な日を月末に調整します。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org